

復活節第6主日

第一朗読：使徒 15・1～2、22～29

第二朗読：黙示録 21・10～14、22～23

福音書：ヨハネ 14・23～29

2025.5.25 9:30 ミサ

カトリック高円寺教会

イエズス会 アン助祭

今日のミサでは、ヨハネ福音書に記された「最後の晚餐」でのイエスの言葉の一部が読まれました。これは、イエスがこの世を去って父なる神のもとに帰る前に残された、いわば霊的な遺言とも言える言葉です。イエスが人々に託そうとした、最後で最も大切なメッセージがここに込められています。

イエスはこう言われました。「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛し、父とわたしはその人のもとに行き、一緒に住む」（ヨハネ 14・23）。なんと慰めに満ちた言葉でしょう。けれども、イエスが残されたのはそれだけではありません。さらにこう続けられました。「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない」（ヨハネ 14・27）。この言葉は、わたしたちにもとてもなじみ深いものですね。毎日のミサの中で、司祭が繰り返し唱える言葉でもあります。

しかし、この「イエスの平和」は、わたしたちにとって、いったいどのような意味を持つのでしょうか？ 今日の説教では、この「主の平和」について、三つの視点から深めていきたいと思います。

第一に、イエスご自身が「平和」であるということです。

イエスの生涯全体が「平和」をあらわすものでした。イエスは、常に穏やかで、すべての人に愛をもって寄り添い、特に罪人や苦しむ者、見捨てられた者たちに深い慈しみを注がれました。どんな人であっても、イエスは心を広げて迎え入れ、その心に抱いてくださいました。

今日の福音の場面——最後の晚餐の直後、イエスは弟子たちに「平和を与える」と語られました。しかし、その時の状況は決して平和とは言えません。ユダは裏切り、ペトロは否認し、他の弟子たちも逃げ去ってしまいます。イエスは孤独と裏切りの中に取り残されるのです。それでもイエスは、恐れることなく、怒ることも非難することもなく、最後まで穏やかに歩まれました。イエスこそが「平和」であり、その平和は、わたしたちにも注がれています。ですから、わたしたちは、この平和の源であるイエスにとどまり、主から与えられる平和に養われるよう招かれているのです。

第二に、この平和は、神からの無償の賜物であることです。

イエスの言葉は、わたしたちが深く求めている「平和」が、まず神からの贈り物であることを教えてくれます。わたしたちの努力や成功、財産などで手に入れるものではありません。世が与える「平和」は、しばしば自己満足に留まり、他者とのつながりを断ち切ってしまうこともあります。

しかしイエスがもたらした平和はまったく違います。それは、「神が共におられている」という深い確信を与えてくれ、不安や恐れからわたしたちを解放します。そしてその平和は、わたしたちの心に喜びを呼び起こし、他者に手を差し伸べる力を与えてくれます。イエスの平和によって、わたしたちはこの社会において、平和を築く道具となり、緊張や対立を和らげる存在へと変えられていくのです。

第三に、聖霊によって、わたしたちは平和を生きることができる。

今日の福音で、イエスは「弁護者である聖霊」を送ると弟子たちに約束されました。家庭や社会、共同体の中で平和を保つことは、簡単なことではありません。だからこそイエスは、わたしたちの弱さをよくご存じであり、助け主である聖霊を送ってくださったのです。

聖霊降臨の日、臆病で信仰に揺れていた弟子たちは、力強い宣教者へと変えられました。同じように、今日のわたしたちにも聖霊は働いておられます。隣人を兄弟姉妹として見る目を与え、赦しの心、新たに歩み出す勇気を与えてください。わたしたちの力だけではできないことも、聖霊によって可能になるのです。聖霊とともに、わたしたちはこの時代における「平和の証人」となることができます。

さて、今日は「第 59 回世界広報の日」です。今年のテーマは「あなたがたが抱いている希望について、柔和に分ち合いなさい」というものです。この日にあたって、教皇はこう語られました。「キリスト者の希望には『顔』があります。それは、復活された主の顔です。... キリスト者とは、そもそも単に神について『語る』人ではなく、神の愛の素晴らしさをその生き方に映し出す人です。生きて経験させられた愛こそが、問いを生じさせ、答えを求めさせるのです。—— なぜそのように生きているのですか、なぜあなたたちはそうなのですか」。さらに教皇はこうわたしたちに呼びかけます。「敵意のないコミュニケーションの証人となり、橋を架け、ケアの文化を広め、この時代に見える壁と見えない壁とを打ち破っていきましょう」。

今日のミサにおいて、わたしたちは心から感謝を捧げたいと思います。イエスの約束に、イエスの平和に、そして聖霊という賜物に。まもなく訪れる聖霊降臨の祭日に向けて、わたしたちの心が聖霊を迎えるにふさわしく準備されますよ

うに。そして、争いと憎しみに満ちたこの世界にあって、わたしたちが平和の証人となり、愛と思いやりの文化を広げていくことができますように、ともに祈りましょう。

聖母マリア、どうかわたしたちのために取り次いでください。平和である主イエスに、わたしたちを導いてください。アーメン。

参照：第 59 回「世界広報の日」教皇メッセージ「あなたがたが抱いている希望について、柔和に分かち合いなさい」（一ペトロ 3・15－16 参照）

<https://www.cbcj.catholic.jp/2025/05/02/32234/>

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>